

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	21時間	週時間数	1時間
学習到達目標	目指す公務員について調査し、面接準備・面接カード作成に十分な知識を持つ。公務員試験についても調査、理解する。面接指導、作文指導も行う。(インターネット利用)		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	面接対策&ビジネスマナー、オリジナルレジュメなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	目指す公務員についての調査	前年度資料などを使用し、目標とする公務員について調査。DVD鑑賞も行う。
	2	目指す公務員についての調査	前年度資料などを使用し、目標とする公務員について調査。DVD鑑賞も行う。
	3	目指す公務員についての調査	前年度資料などを使用し、目標とする公務員について調査。DVD鑑賞も行う。
	4	調整週	
	5	まとめ	
	6	発表	
	7	作文	
	8	調整週	
	9	公務員試験についての調査	募集要項やインターネットを使い、受験予定の公務員試験を調査。指導、日程調整も行う。
	10	公務員試験についての調査	募集要項やインターネットを使い、受験予定の公務員試験を調査。指導、日程調整も行う。
	11	まとめ、スケジュール作成	
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
単位数	21時間	週時間数	1時間
学習到達目標	目指す公務員について調査し、面接準備・面接カード作成に十分な知識を持つ。公務員試験についても調査、理解する。面接指導、作文指導も行う。(インターネット利用)		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	面接対策&ビジネスマナー、オリジナルレジュメなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	25	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	26	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	27	作文	
	28	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	29	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	30	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
31	期末テスト		
32	調整週		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	政治経済	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	58時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各公務員試験1次試験の全員合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ社会科学、オープンセサミテキストなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	答練①対策	(政治)民主政治の成立
	2	答練②対策	(政治)日本国憲法・基本的人権の尊重①
	3	答練③対策	(政治)基本的人権の尊重②・日本の政治機構①
	4	答練④対策	(政治)日本の政治機構②
	5	答練⑤対策	(政治)現代政治の諸問題
	6	答練⑥対策	(政治)国際政治の現状と課題
	7	答練⑦対策	(経済)経済社会のしくみ・日本経済の構造と成長①
	8	答練⑧対策	(経済)日本経済の構造と成長②・日本経済の現状と諸問題
	9	答練⑨対策	(経済)国際経済と経済協力
	10	答練⑩対策	(経済)現代経済の諸問題
	11	政治演習①	問題集編P.6～17(12)
	12	政治演習②	問題集編P.18～31(14)
	13	政治演習③	問題集編P.32～43(12)
	14	政治演習④	問題集編P.44～59(16)
	15	政治演習⑤	問題集編P.60～71(12)
	16	政治⑥/経済演習①	問題集編P.72～85(14)
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	政治経済	指導担当者名	白鳥吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	58時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各公務員試験1次試験の全員合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ社会科学、オープンセサミテキストなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	経済演習②	問題集編P.86～97(10)
	18	経済演習③	問題集編P.98～111(14)
	19	経済演習④	問題集編P.112～119(8)
	20	経済演習⑤	問題集編P.120～133(14)
	21	経済演習⑥	問題集編P.134～147(14)
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本史	指導担当者名	城 雄一郎
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ人文科学、オープンセサミテキスト、オリジナルテキストなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	原始時代、古代前期	テキストによる学習、1問1答による確認
	2	平安時代、鎌倉時代	テキストによる学習、1問1答による確認
	3	室町時代	テキストによる学習、1問1答による確認
	4	戦国時代から幕藩体制の成立	テキストによる学習、1問1答による確認
	5	江戸時代の政治と社会	テキストによる学習、1問1答による確認
	6	江戸時代の文化	テキストによる学習、1問1答による確認
	7	開国・維新期の政治と社会	テキストによる学習、1問1答による確認
	8	明治・大正の文化	テキストによる学習、1問1答による確認
	9	2つの世界大戦と日本	テキストによる学習、1問1答による確認
	10	戦後昭和と政治と社会	テキストによる学習、1問1答による確認
	11	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	12	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	13	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	14	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	15	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	16	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本史	指導担当者名	城 雄一郎
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ人文科学、オープンセサミテキスト、オリジナルテキストなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	18	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	19	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	20	問題演習	問題集、過去問プリントにて演習
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	世界史	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ人文科学、オープンセサミテキスト、オリジナルテキストなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	四大文明、ギリシャ世界とローマ帝国	テキストによる学習、1問1答による確認
	2	中世ヨーロッパ世界	テキストによる学習、1問1答による確認
	3	近代ヨーロッパの形成と発展	テキストによる学習、1問1答による確認
	4	近代ヨーロッパの形成と発展	テキストによる学習、1問1答による確認
	5	中国王朝国家の発展	テキストによる学習、1問1答による確認
	6	イスラム世界の形成と発展	テキストによる学習、1問1答による確認
	7	市民革命	テキストによる学習、1問1答による確認
	8	ヨーロッパ諸国の東進	テキストによる学習、1問1答による確認
	9	2つの世界大戦	テキストによる学習、1問1答による確認
	10	第2次世界大戦後の世界	テキストによる学習、1問1答による確認
	11	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	12	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	13	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	14	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	15	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	16	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	世界史	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ人文科学、オープンセサミテキスト、オリジナルテキストなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	18	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	19	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	20	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	地理	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習内容を復習する。問題演習を通じて、実問題への対応力を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ人文科学、オリジナルプリント、過去問プリントなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	地形①	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	2	地形②、気候①	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	3	気候②	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	4	世界の農牧業①	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	5	世界の農牧業②、世界の鉱工業①	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	6	世界の鉱工業②、各国の地誌①(アジア)	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	7	各国の地誌②(アジア)、③(アメリカ、ヨーロッパ)	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	8	各国の地誌④(アメリカ、ヨーロッパ)、⑤(その他の地域)	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	9	日本の自然と産業	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	10	人口問題	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	11	調整週	オープンセサミテキスト・絶対合格シリーズによる学習、1問1答による確認
	12	地形	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	13	気候	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	14	農業	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	15	調整週	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	16	エネルギー資源・鉱工業	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	地理	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習内容を復習する。問題演習を通じて、実問題への対応力を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ人文科学、オリジナルプリント、過去問プリントなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	人口・貿易	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	18	世界の諸地域	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	19	過去問題プリント	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	20	過去問題プリント	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	自然科学	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	92時間	週時間数	4時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	麻生公務員テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	答練①対策	物理・化学・生物・地学
	2	答練②対策	物理・化学・生物・地学
	3	答練③対策	物理・化学・生物・地学
	4	答練④対策	物理・化学・生物・地学
	5	答練⑤対策	物理・化学・生物・地学
	6	答練⑥対策	物理・化学・生物・地学
	7	答練⑦対策	物理・化学・生物・地学
	8	答練⑧対策	物理・化学・生物・地学
	9	答練⑨対策	物理・化学・生物・地学
	10	答練⑩対策	物理・化学・生物・地学
	11	物理演習	速度・力
	12	物理演習	エネルギー・波動
	13	物理演習	電気物理・原子物理
	14	化学演習	原子核構造・結合
	15	化学演習	化学反応・気体の法則
	16	化学演習	酸・塩基
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	自然科学	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	92時間	週時間数	4時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	麻生公務員テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	化学演習	気体・金属
	18	生物演習	細胞・酵素
	19	生物演習	遺伝・人体
	20	生物演習	恒常性・動物の行動
	21	地学演習	地球の概観
	22	地学演習	宇宙
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	数的推理	指導担当者名	宍戸 幸
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	58時間	週時間数	3時間
学習到達目標	短期間での完成を目指し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解をさせる。校内模試を活用し、復習と振り返りの機会とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	絶対合格シリーズ テキスト編、問題集編		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	数と式の基本	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	2	覆面算、方陣算	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	3	数の並びと規則、n進法	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	4	速度、距離	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	5	割合、比、濃度	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	6	平面図形	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	7	円	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	8	立体図形	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	9	順列、組合せ	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	10	確率	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	11	年齢算、売買損益	テキスト編から解説、問題演習
	12	平均、方程式	テキスト編から解説、問題演習
	13	時計算、不等式	テキスト編から解説、問題演習
	14	ニュートン算、整数	テキスト編から解説、問題演習
	15	単元別演習(論理分野)	問題集編から演習、解説
	16	単元別演習(論理分野)	問題集編から演習、解説
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	数的推理	指導担当者名	宍戸 幸
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	58時間	週時間数	3時間
学習到達目標	短期間での完成を目指し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解をさせる。校内模試を活用し、復習と振り返りの機会とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	絶対合格シリーズ テキスト編、問題集編		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	単元別演習(論理分野)	問題集編から演習、解説
	18	単元別演習(図形分野)	問題集編から演習、解説
	19	総合演習	問題集編から演習、解説
	20	総合演習	問題集編から演習、解説
	21	期末テスト	
	22	総合演習	問題集編から演習、解説
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	判断推理	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	58時間	週時間数	3時間
学習到達目標	初めて学習する者に対しても方法を理解・習得させ、実問題レベルの問題を解けるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ判断推理、確認テスト、期末テスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	論理と集合	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	2	対応関係、暗号解読	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	3	順序関係、試合の勝敗	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	4	方位・位置関係	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	5	手順・数量関係、うそつき問題	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	6	道順。一筆書き、軌跡	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	7	平面図形の分割・構成、折り紙	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	8	空間図形の分割・構成、投影図	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	9	展開図、サイコロ	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	10	立体図形の切断	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	11	調整週	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	12	命題・論理、暗号	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	13	試合と勝敗、うそつき、対応関係	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	14	順位・順序、家族関係	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	15	比較、手順、曜日	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	16	位置、方位、道順	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	判断推理	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	58時間	週時間数	3時間
学習到達目標	初めて学習する者に対しても方法を理解・習得させ、実問題レベルの問題を解けるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	絶対合格シリーズ判断推理、確認テスト、期末テスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	平面図形	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	18	立体	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	19	展開図、折り紙	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	20	投影図・見取図、サイコロ	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	21	期末テスト	
	22	軌跡、断面図・回転体	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	資料解釈	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	23時間	週時間数	1時間
学習到達目標	難易度の低い問題から始め、解き方のコツを理解させる。実問題レベルに対応できるように学習を進める。資料解釈への苦手意識を払拭させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	公務員合格ゼミ、絶対合格シリーズ、東京アカデミーオープンゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	指数(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	2	増加率(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	3	割合(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	4	実数(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	5	調整週	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	6	数表(ウイネット講義編)	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	7	図表(ウイネット講義編)	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	8	特殊な数表・図表(ウイネット講義編)	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	9	調整週	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	10	数表-実数と構成比(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	11	数表-増加率・減少率(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	12	数表-未知数(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	13	調整週	実問題レベルの問題に挑戦する。
	14	図表-実数と構成比(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	15	図表-増加率・減少率(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	16	図表-未知数(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	資料解釈	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	23時間	週時間数	1時間
学習到達目標	難易度の低い問題から始め、解き方のコツを理解させる。実問題レベルに対応できるように学習を進める。資料解釈への苦手意識を払拭させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	公務員合格ゼミ、絶対合格シリーズ、東京アカデミーオープンゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	調整週	実問題レベルの問題に挑戦する。
	18	特殊な数表・図表(絶対合格シリーズ)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	19	過去問題プリント	実問題レベルの問題に挑戦する。
	20	調整週	実問題レベルの問題に挑戦する。
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	国語	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	12時間	週時間数	1時間
学習到達目標	公務員試験(一次試験および二次試験)に活かす。 日本語検定3級の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ステップアップ日本語講座(中級)、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	敬語	テキストによる問題演習と解説
	2	敬語	テキストによる問題演習と解説
	3	敬語	テキストによる問題演習と解説
	4	文法	テキストによる問題演習と解説
	5	文法	テキストによる問題演習と解説
	6	語彙、言葉の意味	テキストによる問題演習と解説
	7	表記、漢字	テキストによる問題演習と解説
	8	過去問題演習	
	9	過去問題演習	
	10	過去問題演習	
	11	期末テスト	
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	適性演習		指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	69時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	公務員試験本番に向けて、ブラッシュアップさせる。合格圏にまで到達できるよう励ましながら続ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	適性検査練習問題など			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	2	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	3	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	4	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	5	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	6	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	7	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	8	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	9	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	10	教材を使った問題演習	方法をしっかりと理解し、実施する。できない問題など見直す。	
	11	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。	
	12	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。	
	13	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。	
	14	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。	
	15	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。	
	16	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	適性演習	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	69時間	週時間数	3時間
学習到達目標	公務員試験本番に向けて、ブラッシュアップさせる。合格圏にまで到達できるよう励ましながら続ける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	適性検査練習問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	18	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	19	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	20	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	21	期末試験	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	Excel実習	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	1～2月受験のExcel検定3級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Excelクイックマスター、Excel検定問題集など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	基本操作、データの編集	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	25	表の編集、ブックの印刷	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	26	グラフと図形の作成	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	27	ブックの利用と管理	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	28	関数・データベース機能	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	29	問題演習	実技練習問題
	30	問題演習	実技練習問題
31	期末テスト、問題演習	模擬問題	
32	問題演習	模擬問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	Word実習	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	2月受験のWord検定3級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Wordクイックマスター、Word検定問題集など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	基本操作、文字の入力	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	25	文書の編集、文書の印刷	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	26	文書の作成	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	27	文書の作成	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	28	書類送付案内、営業所案内図	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	29	問題演習	練習問題
	30	問題演習	練習問題
31	期末テスト、問題演習	模擬問題	
32	問題演習	模擬問題	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	動画編集演習	指導担当者名	菅野 浩二
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	動画編集の基礎を学び、作品を完成させ、プレゼンテーションを行う。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	個人所有ノートPC、スマートフォン、動画編集アプリ、オリジナルプリントなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	基本操作学習	動画編集ソフトの基本を学ぶ
	25	基本操作学習	動画編集ソフトの基本を学ぶ
	26	撮影実習	撮影の基礎を学習し、屋内屋外での実習を行う
	27	映像編集	撮影した素材をもとに基礎的な編集作業を学ぶ
	28	台本作成	課題作成のための台本・コンテを作成する
	29	課題作成	プレゼンテーション用作品制作
	30	課題作成	プレゼンテーション用作品制作
31	期末テスト	課題発表、プレゼンテーション	
32	調整週		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	所得税法		指導担当者名	高橋 信男
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間	
学習到達目標	税法に関する知識を早期に理解して、解答力を高める。そして所得税法3級の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	所得税法テキスト、直前模試(英光社)など			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24	所得税のあらまし	税金の分類	
	25	所得税の内容と計算方法	科目別の税額計算	
	26	課税標準	課税標準の計算	
	27	所得控除	14種類の所得控除を正しく計算	
	28	税額の計算	申告納税額の計算方法	
	29	所得税の申告・納付等の手続	確定申告制度の理解	
	30	演習①	第1回演習問題	
31	演習②	第2回演習問題		
32	期末テスト			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	硬筆書写演習	指導担当者名	高橋 礼子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	1月末受験の硬筆書写検定3級の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	硬筆書写検定3級合格のポイント、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	問題演習	実技(第一問、第二問)
	25	問題演習	実技(第三問、第四問)
	26	問題演習	実技(第五問、第六問)
	27	問題演習	理論(第七問～第十問)
	28	問題演習	調整週
	29	確認テスト、問題演習	部首テスト(冬休み宿題)、過去問題による答案練習
	30	問題演習	過去問題による答案練習
31	期末テスト、問題演習	過去問題による答案練習	
32	問題演習	過去問題による答案練習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習 I A	指導担当者名	白鳥吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	100時間	週時間数	5時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、業者模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	模擬試験演習	
	2	模擬試験演習	
	3	模擬試験演習	
	4	模擬試験演習	
	5	模擬試験演習	
	6	模擬試験演習	
	7	模擬試験演習	
	8	模擬試験演習	
	9	模擬試験演習	
	10	模擬試験演習	
	11	模擬試験演習	
	12	模擬試験演習	
	13	模擬試験演習	
	14	模擬試験演習	
	15	模擬試験演習	
	16	模擬試験演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習 I A	指導担当者名	白鳥吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	100時間	週時間数	5時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、業者模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	13	模擬試験演習	
	14	模擬試験演習	
	15	模擬試験演習	
	16	模擬試験演習	
	17	模擬試験演習	
	18	模擬試験演習	
	19	模擬試験演習	
	20	模擬試験演習	
	21	模擬試験演習	
	22	模擬試験演習	
	23	模擬試験演習	
	24		
	25		
	26		
27			
28			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習 I B	指導担当者名	白鳥吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	5時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、業者模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	模擬試験演習	
	2	模擬試験演習	
	3	模擬試験演習	
	4	模擬試験演習	
	5	模擬試験演習	
	6	模擬試験演習	
	7	模擬試験演習	
	8	模擬試験演習	
	9	模擬試験演習	
	10	模擬試験演習	
	11	模擬試験演習	
	12	模擬試験演習	
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習Ⅱ	指導担当者名	白鳥吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	110時間	週時間数	10時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、業者模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13	模擬試験演習	
	14	模擬試験演習	
	15	模擬試験演習	
	16	模擬試験演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習Ⅱ	指導担当者名	白鳥吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	110時間	週時間数	10時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、業者模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	模擬試験演習	
	18	模擬試験演習	
	19	模擬試験演習	
	20	模擬試験演習	
	21	模擬試験演習	
	22	模擬試験演習	
	23	模擬試験演習	
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			